

報道関係者各位

日本CCS調査株式会社

「Japan-Asia CCUS Forum 2021」 10月20日（水）オンライン開催のお知らせ

日本CCS調査株式会社（本社：東京都千代田区、社長：中島俊朗）は、CCSの世界的なシンクタンクであるグローバルCCSインスティテュート（本部：オーストラリア、メルボルン、日本事務所代表：南坊博司）との主催により、「Japan-Asia CCUS Forum 2021」をオンラインにて開催します。

開催趣旨：

当社は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業として、北海道苫小牧市におけるCCUS大規模実証試験を推進しています。

また本年6月には、経済産業省、ならびに東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）が、アジア全域での二酸化炭素回収・利用・貯留（CCUS）活用に向けた知見の共有や事業環境整備を目指す国際的な産学官プラットフォームとして立ち上げた「アジアCCUSネットワーク」にサポーターティングメンバーとして参加し、日本政府が目指すアジアにおけるCCUSの普及・展開も支援しています。

本年度のフォーラムでは、日本政府のCCUS政策、アジア地域におけるCCUSの取組や、プロジェクト事業者からの主要な成果等が取り上げられます。またヨーロッパの先進的なプロジェクトより講演者を招聘し、これまでの成果や知識を共有し、アジア太平洋地域の講演者は、プロジェクトが開発されている地域の課題、政策や規制、具体的展開の戦略について発表します。

本フォーラムは、昨年度に続き、経済産業省のご後援、NEDOのご共催をいただき、日本CCS調査株式会社とグローバルCCSインスティテュートの主催の会合となります。本年度の「Japan-Asia CCUS Forum 2021」へのご参加を心よりお待ちしております。

- お申込みはこちらから：

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_nXKko8ohSoSGns2uB4WyAQ

- 本イベントの詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.japanccs.com/news/20210921/>

- 日英の同時通訳があります。
- 演題、講演者、講演内容、講演の時間帯は予告なく一部変更になる場合があります。予めご了承ください。
- 講演は配信プラットフォーム上でZOOMにて配信します。

1. 開催概要：

日 時 : 2021年10月20日(水) 13:30~18:35
開催方法 : オンライン開催(媒体: ZOOM)
会議言語 : 日本語・英語(同時通訳)
定 員 : 1500名
※申込数が定員を超えた場合、ご参加いただけない場合があります。
主 催 : 日本CCS調査株式会社(JCCS)、グローバルCCSインスティテュート(GCCSI)
共 催 : 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
後 援 : 経済産業省(METI)

2. プログラム：

13:30	<p>開会宣言、後援者/共催者/主催者による挨拶および講演</p> <p>■後援者挨拶 経済産業省</p> <p>■基調講演1： 経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油・天然ガス課長 早田豪 「日本のCCUS政策」(仮題)</p> <p>■基調講演2： 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 環境部 部長 上原 英司 「NEDOにおけるカーボンリサイクル・CCUS研究開発の取り組み」(仮題)</p> <p>■主催者挨拶・講演 グローバルCCSインスティテュート 「Global Status of CCS 2021の概要」</p>
14:20	休憩
14:30	<p>第一部 日本のCCUS技術をアジアへ、世界へ</p> <p>進行：日本CCS調査株式会社 取締役総務部長 川端 尚志</p> <p>■講演1： 東アジア・アセアン経済研究センター エネルギー特別顧問 木村 繁 「アジア地域のCCUS展開とAsia CCUS Networkの役割」</p> <p>■講演2： 日本CCS調査株式会社 新事業準備室 船舶輸送事業グループ長 野澤 寿次 「CO₂船舶輸送のこれまでの検討成果と今後の課題」(仮題)</p> <p>■講演3： 日本CCS調査株式会社</p>

	<p>地質調査部長 渡部 克哉 「二酸化炭素貯留適地調査事業の概要について」</p> <p>■講演4： 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC） CCS 推進グループ 総括・国際連携チーム サブリーダー 西岡 さくら 「2050年カーボンニュートラルに向けた JOGMEC の CCS 事業の取組み」</p> <p>■講演5： 大崎クールジェン株式会社 取締役技術部長 三沢 信博 「大崎クールジェンプロジェクト CO₂分離回収実証試験の状況」</p> <p>■講演6： 三菱重工エンジニアリング株式会社 脱炭素事業推進室 主幹プロジェクト統括 上條 孝 「三菱重工エンジニアリング排ガス CO₂回収技術の最新動向」（仮題）</p> <p>■第一部総括 日本CCS調査株式会社 取締役総務部長 川端 尚志</p>
16:30	休憩
16:45	<p>第二部 海外における CCS/CCUS プロジェクトの現況と課題 進行：グローバル CCS インスティテュート 日本代表 南坊博司 モデレーター：グローバル CCS インスティテュート 取締役 中山寿美枝</p> <p>■①「欧州地域の先行プロジェクト」 講演1：英国 「英国におけるハブ&クラスタープロジェクトの現況と課題」（仮題） 講演2：ノルウェー 「ノルウェーにおけるハブ&クラスタープロジェクトの現況と課題」（仮題） 質疑応答</p> <p>■②「アジアパシフィック地域におけるプロジェクト」 講演3：豪州 「豪州におけるハブ&クラスタープロジェクトの現況と課題」（仮題） 講演4：インドネシア 「インドネシアの CCUS プロジェクトの現況と課題」（仮題） 講演5：シンガポール 「シンガポールにおける CCS/CCUS への取組み」（仮題） 講演6： グローバル CCS インスティテュート シニアクライアントエンゲージメントリーダー Tony Zhang 「Southeast Asia CCUS Roundtable の活動状況」（仮題） 質疑応答</p> <p>■総括：グローバル CCS インスティテュート 取締役 中山 寿美枝</p>
18:27	<p>■閉会挨拶 日本CCS調査株式会社 代表取締役社長 中島 俊朗</p>
18:35	閉会

<会社概要>

名 称	日本CCS調査株式会社
事 業 内 容	二酸化炭素 (CO ₂) の分離・回収、利用、輸送及び地中貯留技術の調査、研究開発、事業化調査、実証試験
代表取締役社長	中島 俊朗
所 在 地	東京都千代田区丸の内一丁目7番12号
U R L	https://www.japanccs.com/
資 本 金	2億4,250万円
設 立 日	2008年5月26日
株 主	電力、石油元売り、エンジニアリング、総合商社、石油開発、鉄鋼、ガス、化学など34社

同時配信

エネルギー記者会、苫小牧市政記者クラブ、北海道経済記者クラブ

<本件に関するお問い合わせ先>

◆シンポジウム内容・参加登録に関するお問合せ先（主催者担当）

国際部 鈴木千代子
TEL : 03-6268-7387
E-mail : international@japanccs.com

◆広報に関するお問い合わせ先

広報渉外部 広報渉外グループ
担当 村元、林田
TEL : 03-6268-7610 【報道関係者からのお問い合わせ】
FAX : 03-6268-7385
E-mail : info@japanccs.com